

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ONEPLAY.GIFTED宜野湾教室（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1 (回答数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性に応じた専門性の高い訪問支援と個別支援の実施 (事業所評価：8～19 保護者評価：⑥～⑪ 訪問先評価：①～⑤)	保護者や訪問先施設からの聞き取りやアセスメントをもとに、こどもの特性や課題を客観的に分析し、訪問先施設の意向も反映した個別支援計画を作成している。訪問時には施設の支援方針や環境を尊重しながら、具体的かつ実践しやすい助言を行うことで、家庭・訪問先施設・事業所が連携した支援を実施している。保護者評価では全28項目すべてが「はい」、訪問先評価でも全5項目が「はい」となっており、専門性の高い支援や助言、支援効果について高い評価を得ている。	訪問前の情報収集やアセスメントを丁寧に行い、保護者・訪問先施設双方の意向を反映した支援計画を作成している。訪問時には施設の支援方法や環境を尊重し、こどもが安心して過ごせるよう状況に応じた支援を実施するとともに、支援後は記録や振り返りを行い、継続的な支援の質向上につなげている。
2	保護者・訪問先施設との信頼関係を大切にしたい情報共有と連携体制 (事業所評価：20～41 保護者評価：⑫～⑳ 訪問先評価：①～⑤)	訪問前後の情報共有やカンファレンスを通じて、保護者・訪問先施設・事業所の三者が共通理解を持ちながら支援を進められるよう努めている。また、相談や要望には迅速かつ丁寧に対応し、支援内容を家庭にも分かりやすく共有している。保護者・訪問先ともに全項目で「はい」と回答されており、信頼関係を基盤とした連携体制が評価されている。	保護者・訪問先施設との情報共有を大切に、訪問後のカンファレンスや支援内容の共有を通して共通理解を図っている。相談や困りごとに対しても迅速かつ丁寧に対応し、家庭・施設・事業所が連携した支援体制を構築している。
3	安全管理を踏まえた安心できる訪問支援体制 (事業所評価：42～46 保護者評価：㉓～㉔)	事故防止マニュアルや安全計画を整備するとともに、緊急時対応や感染症対策等について職員への周知・訓練を実施し、安全を最優先とした訪問支援を行っている。保護者評価では安全管理や満足度に関する項目もすべて「はい」と回答されており、安心して利用できる体制が整えられている。	安全計画や各種マニュアルを整備し、事故防止や感染症対策、緊急時対応等について職員間で共有するとともに、想定訓練を実施し、安全に訪問支援を行える体制づくりに取り組んでいる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員全体で支援を検討・共有する体制の充実 (事業所評価：3・5・9・14～16)	保育所等訪問支援を開始して間もないことから、支援経験や事例の蓄積が少なく、計画作成や振り返りが担当職員中心となる場面があったため、全職員で支援を共有・検討する機会が十分に確保できていない。	定期的なケース会議やミーティングを実施し、保育所等訪問支援の支援計画や支援内容、振り返りを全職員で共有・検討する体制を構築するとともに、PDCAサイクルを組織全体で実践できる仕組みづくりを進める。
2	モニタリング・支援計画の定期的な見直し体制 (事業所評価：19・31)	利用児童数や利用期間が限られていることから、定期的なモニタリングや支援計画の見直しを行う機会が少なく、支援サイクルの定着まで至っていない。	モニタリング実施時期や支援計画見直し時期を明確にし、保護者・訪問先施設との定期的な情報共有やカンファレンスを継続的に実施することで、より一貫性のある支援につなげる。
3	家族支援・専門職連携のさらなる充実 (事業所評価：2・7・23・26)	心理士など専門職との連携や外部研修、家族支援プログラムについては必要性を認識しているものの、実施機会や体制が十分ではなく、専門性向上に向けた取組を継続していく必要がある。	専門職との連携や外部研修への参加機会を拡充するとともに、家族支援プログラムや保護者向け情報提供を計画的に実施し、訪問支援の専門性と支援の質のさらなる向上を図る。